

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第3区分

【発行日】令和5年6月14日(2023.6.14)

【公開番号】特開2022-22619(P2022-22619A)

【公開日】令和4年2月7日(2022.2.7)

【年通号数】公開公報(特許)2022-022

【出願番号】特願2020-112291(P2020-112291)

【国際特許分類】

B 24 B 9/14(2006.01)

10

B 24 B 49/10(2006.01)

G 02 C 13/00(2006.01)

B 24 B 47/22(2006.01)

【F I】

B 24 B 9/14 K

B 24 B 49/10

G 02 C 13/00

B 24 B 47/22

【手続補正書】

20

【提出日】令和5年6月5日(2023.6.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

眼鏡レンズの周縁を加工工具によって加工する眼鏡レンズ加工装置において、

眼鏡レンズをレンズ保持軸で保持する保持手段と、

30

眼鏡レンズの周縁を加工するときの第1保持圧で眼鏡レンズが前記レンズ保持軸によって保持された状態で眼鏡レンズの第1外形形状を取得する第1外形形状取得手段と、

眼鏡レンズが前記レンズ保持軸によって前記第1保持圧で保持される前に、眼鏡レンズの第2外形形状を取得する第2外形形状取得手段と、

取得された前記第1外形形状と前記第2外形形状とを比較可能に出力する出力制御手段と、

を備えることを特徴とする眼鏡レンズ加工装置。

【請求項2】

請求項1の眼鏡レンズ加工装置において、

40

前記出力制御手段は、取得された前記第1外形形状と前記第2外形形状とに基づいて前記第1保持圧で眼鏡レンズが保持されたときの眼鏡レンズの横ズレを検出するズレ検出手段を備え、前記ズレ検出手段の検出結果を出力することを特徴とする眼鏡レンズ加工装置。

【請求項3】

請求項1又は2の眼鏡レンズ加工装置において、

前記レンズ保持軸で眼鏡レンズを保持するときの保持圧を変更する保持圧変更手段を備え、

前記第2外形形状取得手段は、前記第1保持圧よりも弱い第2保持圧で眼鏡レンズが前記レンズ保持軸によって保持された状態で眼鏡レンズの前記第2外形形状を取得する手段であり、

前記第1外形形状取得手段は、前記保持圧変更手段によって前記第2保持圧から前記第

50

1 保持圧に変更された状態で眼鏡レンズの前記第1外形形状を取得する手段である、ことを特徴とする眼鏡レンズ加工装置。

【請求項4】

請求項2の眼鏡レンズ加工装置において、
眼鏡レンズの周縁を加工するための玉型データと、前記レンズ保持軸による眼鏡レンズの保持中心に対する玉型データの位置関係データと、を取得するデータ取得手段と、
前記ズレ検出手段の検出結果に基づいて前記位置関係データを補正する補正手段と、を備え、
補正された前記位置関係データに基づいて眼鏡レンズの周縁を前記加工工具によって加工することを特徴とする眼鏡レンズ加工装置。

10

【請求項5】

請求項4の眼鏡レンズ加工装置において、
前記レンズ保持軸に眼鏡レンズを保持させるために眼鏡レンズに固定された加工治具のカップの外形形状データを記憶する記憶手段と、
前記ズレ検出手段の検出結果、前記玉型データ及び前記記憶手段に記憶された前記カップの外形形状データに基づき、前記補正手段の補正結果に基づく眼鏡レンズの周縁加工を行うか否かを判定する判定手段と、を備えることを特徴とする眼鏡レンズ加工装置。

【請求項6】

レンズ保持軸に保持された眼鏡レンズの周縁を加工工具によって加工する眼鏡レンズ加工装置で実行される眼鏡レンズ加工装置の制御プログラムであって、
眼鏡レンズの周縁を加工するときの第1保持圧で眼鏡レンズが前記レンズ保持軸によって保持された状態で眼鏡レンズの第1外形形状を取得する第1外形形状取得ステップと、
眼鏡レンズが前記レンズ保持軸によって前記第1保持圧で保持される前に、眼鏡レンズの第2外形形状を取得する第2外形形状取得ステップと、
取得された前記第1外形形状と前記第2外形形状とを比較可能に出力する出力制御ステップと、
を眼鏡レンズ加工装置の制御ユニットに実行させることを特徴とする眼鏡レンズ加工装置の制御プログラム。

20

30

40

50